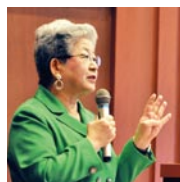


## 寄稿

## 女性研究者キャリア開発センターより

女性研究者キャリア開発センターは、箱崎キャンパス旧工学部本館2階に、二つの居室を整備し、文部科学省・科学技術振興調整費「女性研究者支援システム改革」事業を実施しています。平成22年2月3日(水)には、稲盛財団記念館稲盛ホール(伊都キャンパス)にて、第一回セミナー「女性のキャリアと研究開発」を開催しました。



水田祥代センター長

水田祥代センター長(理事・副学長)による開会挨拶の後、リコーITソリューションズ株式会社取締役会長執行役員である國井秀子氏が、「企業におけるダイバーシティ推進～組織で活躍する女性を育てるために～」と題して講演を行いました。組織成長の鍵となる人材の多様性、女性の活躍が遅れている日本の現状、企業におけるワークライフバランス、キャリアパス支援について、データや海外の事例に基づいたプレゼンテーションが行われました。

次に、本学応用力学研究所／研究戦略企画室

の上瀧恵里子准教授が、「キャリア形成への多様な道筋—文学士から工学博士へ—」と題して講演を行いました。文系から理系へ、秘書から研究職へというキャリアパスの具体例、女性の社会進出を阻む阻害要因の分析、職業意識や倫理等について、次世代への啓発的メッセージが送られました。最後に、本学システム情報科学研究所の岩下友美助教とセンターの佐々木圭子特任助教も加わり、ディスカッションが行われ、盛会のうちにセミナーは終了しました。



ディスカッションの様子

この他にも、女性研究者キャリア開発センターは、研究者の能力開発を行うセミナーや、次世代



第2回交流会(3月4日)／学ぶ楽しさ展II(3月4日～10日)

交流会などを開催しています。3月2日には、第3回スキル・アップセミナー「マインドマップ講習会」(講師：名古屋大学 榊原千鶴助教)を実施しました。

また、センターのライブラリーは、女性と科学、男女共同参画、ジェンダーに関する資料など幅広い内容の図書・メディア資料を揃えています。貸出可能で、閲覧スペースも設けていますので、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。

副センター長 犬塚 典子

## 寄稿

## 九州大学女性医療人きらめきプロジェクトより

九州大学では「女性医療人きらめきプロジェクト」が平成19年度文部科学省大学改革等推進事業「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム、女性医師・看護師の臨床現場定着及び復帰支援」に採択され、21年度で文科省プログラムとしては終了する。この取組において目指したことは出産・育児や介護、自身の疾病などによる女性医療人(医師、歯科医師、看護師)の休職や離職を回避し、そのキャリアの継続を支援することである。このために以下のような多面的取り組みを行い、この取り組みの趣旨が定着するための基盤を構築できたと考えている。

## 1 女性医療人の現状調査

慢性疲労度、精神的健康度、働き続けることによるストレス、生きがい、職場満足度、人的サポートなどについて九州大学病院に勤務する女性医療人を対象として調査を行った。慢性疲労や精神的不健康を全体の半数が感じており、女性が働き続けることに対する様々なストレス度も高かった。職場環境に関する不満も高く、育児・介護サービスを利用できている人は少数であった。このような結果をふまえて、21年11月に終夜保育、病後児保育を行うひまわり保育園が開設された。制度的な整備を進めるとともに働く女性の抱える精神的なストレスと健康との関連をより明らかにし、どのような対策や支援が女性医療人の健康維持に必要であるか検討を進めている。

## 2 ネットワークシステム及びホームページによる人材の登録

現在、40名の学外女性医療人がきらめきプロジェクトのホームページ(HP)に登録しているが、今後も登録を促進し、学外の女性医師とも交流を広げてゆければと考えている。学生に対する情

報提供も必要であり、医療系学生も登録している。

## 3 ジェンダー教育、性差医学の教育

医療系学生がジェンダー論や性差医学を理解することは、今後の医療において必須である。1年生にジェンダー学、2年生には性差医学入門を新規開講し継続している。

## 4 自宅学習を可能とするe-ラーニング教材コンテンツの作成と配信

育児や介護などに従事している女性医療人は講演会などに出席できないことが多く、学習の機会が制限される。本学で行われる多方面の教育的講演会を収録し、HPを介してe-ラーニングコンテンツ教材を配信するシステムを構築した。ライフステージに応じたプログラムを組んでいる。

## 5 講演会の開催による医療関係者の啓発

これまで3回の女性医療人きらめき講演会を開催し医療関係者の啓発を行ってきた。19年度は元内閣官房副長官、古川貞二郎氏によるキックオフミーティング、20年度は医学、歯学、看護領域の演者による講演会を企画し、心臓外科医の野尻知里氏、歯学部出身の大隅典子氏、看護師の馬庭恭子氏を迎え、「女性医療人の生き方 三人三色」と題うって型にはまらない女性医療人の話を聞いた。21年度は「組織を変えると女性が変わる」というテーマで、大阪厚生年金病院院長の清野佳紀氏、性差医療専門家の天野恵子氏、看護部長二人(救市民病院看護部長 原田博子氏、近森病院看護部長 久保田聡美氏)の講演会を開いた。組織を動かし変えるにはトップの意識改革無しには不可能である。

## 6 女性総合外来と女性医療人ステップアップ外来の設立

20年4月より総合診療部の協力を得て女性総

合外来を開設した。総合診療を行い、専門性の高い診療が必要と考えられた時には女性医療人ステップアップ外来の女性医師や各診療科の実行委員に院内紹介を行うシステムである。女性医療人ステップアップ外来は本事業で雇用している非常勤女性医師のキャリアを継続するためのステップアップを目指した外来システムであり、このメンバーが女性総合外来を受診する女性患者の性差医療に基づいた専門的診療を受け持っている。女性医師のためのステップアップと女性患者のための女性外来が結合されている点でユニークである。女性医師10人(小児科2人、眼科3人、外科1人、皮膚科1人、麻酔科1人、耳鼻科2人)、歯科医師8人、看護師4人が勤務した。このように自身のキャリアを伸ばすために非常勤職として大学病院や研修指定病院等で勤務することを望んでいる女性医療人が多く、このような就労制度の需要は高いと考えられる。自由度の高い就業制度によりライフステージに合わせた継続勤務が可能で、その能力を活かすことができ、これからの医師や看護師不足に大きな貢献が期待できる。

以上のように、この3年間で女性医療人がその専門領域のキャリアを継続することができ、一定期間の後には専門医取得や常勤として復帰できるチャンスを得ることができた。22年度以降も女性医療人教育実践センターを中心に九州大学病院の予算でこの活動を展開してゆくことになった。この活動が続くことにより男性医療人にも女性がそれぞれのライフステージに抱える障壁を理解する機会を広げ、男女ともに働きやすい医療現場が実現されてゆくことを切に願っている。

ちしやき  
取組責任者 榎木 晶子